

フェローテックの知財戦略：半導体部材を支える知財投資と海外生産網の拡充

エグゼクティブサマリ

事業概要

株式会社フェローテックは、2025年7月1日に「株式会社フェローテックホールディングス」から商号を変更した企業である。同社は、2025年6月27日の第45期定時株主総会および同日開催の取締役会を経て、代表取締役社長、代表取締役副社長、取締役、社外取締役、監査役、執行役員からなる経営体制を公表している[2][3]。公式製品情報では、サーモモジュール、サーミスタ、パワー半導体用基板、磁性流体、真空シール、石英製品、シリコンパーツ、セラミックス製品、CVD-SiC製品、半導体用シリコンウエーハ、装置部品洗浄、再生ウエーハなどが掲載されている[1]。事業会社・グループ会社は日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパに所在し、マレーシアにはFerrotec Manufacturing Malaysia Sdn. Bhd.などの拠点が掲載されている[10][11]。

財務

フェローテックの公式財務データでは、2021年3月期から2025年3月期にかけて、売上高、総資産、純資産が増加している。売上高は2021年3月期の91,312百万円から2025年3月期の274,390百万円へ、総資産は177,392百万円から600,593百万円へ、純資産は78,239百万円から323,549百万円へ増加した[5]。2026年3月期決算短信では、売上高288,933百万円、営業利益27,561百万円、経常利益26,063百万円、親会社株主に帰属する当期純利益14,886百万円が公表されている[6]。同決算短信では、2026年12月期の通期連結業績予想として売上高350,000百万円、営業利益38,000百万円、経常利益36,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益23,000百万円が示されている[6]。2026年12月期は決算期変更に伴う9か月の変則決算として説明されている[7]。

技術・知財

フェローテックの公式製品情報には、半導体製造装置向け部材や電子デバイス関連製品が掲載されている[1]。コーポレートガバナンス報告書では、人的資本や知的財産への投資等について、中国の子会社で半導体関係の研究院の設置、博士クラス人材の採用強化、優秀な特許出願者への表彰や報奨金の付与等を実施している旨が記載されている[4]。日本国内の公開特許情報については、J-PlatPatで公報番号を指定して確認できる。2026年に公開されたフェローテック関連の公報として、特開2026-57834、特開2026-57835、特開2026-55735、特開2026-13149が確認対象となる[8]。米国の公開公報や登録情報は、USPTO Patent Centerで公開番号または特許番号を指定して確認できる[9]。

戦略・成長

2026年3月期決算説明および中期経営計画骨子では、2026年12月期以降の業績予想、設備投資額、減価償却費、EBITDA、為替レート前提などが示されている[7]。同資料では、決算期変更について、2026年12月期は当社単体が2026年4月から12月までの9か月、連結子会社は2026年1月から12月までの12か月を連結対象とする旨が説明されている[7]。設備投資については、マレーシア・クリム、中国の北京、紹興、武漢などの工場計画が決算説明資料に記載されている[7]。2024年1月には、マレーシア北部ケダ州の製造子会社Ferrotec Manufacturing Malaysia Sdn. Bhd.でグランド・オープニング・セレモニーを開催したことが公式に発表されている[12]。2025年4月には、FTMM第2工場に関する設備投資が公表されている[13]。

リスク・ESG

フェローテックのコーポレートガバナンス報告書は、同社が2021年にマテリアリティおよびサステナビリティ基本方針を策定したことを記載している[4]。同報告書では、人的資本や知的財産への投資、取締役会・監査役へのトレーニング方針、政策保有株式、関連当事者取引、内部通報制度などのコーポレートガバナンスに関する開示が含まれている[4]。同社は、半導体の製造プロセスは環境負荷が大きく、これを解決することが業界全体の課題であると記載している。また、ノン・フロン温調デバイスであるサーモジュール、消費電力削減に有効なパワー半導体基板、磁性流体等の製品販売、日本および中国の工場における太陽光パネルを用いたクリーンエネルギー発電等を事業を通じた温室効果ガス低減への取組みとして記載している[4]。

1. 事業概要と商号変更

株式会社フェローテックは、2025年7月1日付で「株式会社フェローテックホールディングス」から「株式会社フェローテック」へ商号を変更した。同社は、2025年2月13日公表の「当社の商号変更および定款の一部変更(商号)のお知らせ」において、純粋持株会社から事業会社に移行することに伴い、商号を変更する予定であると説明した[2]。公式沿革では、2025年7月にフェローテックマテリアルテクノロジーズを吸収合併し、株式会社フェローテックに社名変更したことが記載されている[14]。

同社の公式製品情報には、サーモジュール、サーミスタ、パワー半導体用基板、磁性流体、真空シール、石英製品、シリコンパーツ、セラミックス製品、CVD-SiC製品、半導体用シリコンウエーハ、装置部品洗浄、再生ウエーハが掲載されている[1]。これらの製品は、半導体等装置関連、電子デバイス、車載関連などの事業セグメントに関連する。

フェローテックの公式事業会社ページには、日本国内外の事業会社およびグループ会社が掲載されている[10]。アジアのグループ会社ページには、マレーシア、中国、台湾、韓国、シンガポールなどの拠点が掲載されている[11]。また、Ferrotec Manufacturing Malaysia Sdn. Bhd.は、マレーシアの製造子会社として公式ページに掲載されている[12]。

2. 経営・ガバナンス体制

フェローテックは、2025年6月27日の第45期定時株主総会および同日開催の取締役会において、新経営体制を決定したと公表した[3]。同社の公式役員ページでは、2025年6月27日現在の役員として、代表取締役社長、代表取締役副社長、取締役、社外取締役、常勤監査役、社外監査役、執行役員が掲載されている[3]。監査役は、常勤監査役1名、社外監査役2名で構成されている[3]。

コーポレートガバナンス報告書では、同社の企業理念、行動規範、経営の基本方針、コーポレートガバナンス・コード各原則への対応、取締役会・監査役に関する事項、関連当事者取引、政策保有株式、内部通報制度などが記載されている[4]。同報告書では、同社が2021年にマテリアリティおよびサステナビリティ基本方針を策定したことが記載されている[4]。

同報告書は、人的資本や知的財産への投資等について、日本の子会社で若手幹部への登用や組織のフラット化を推進していること、中国の子会社で半導体関係の研究院の設置、博士クラス人材の採用強化、優秀な特許出願者への表彰や報奨金の付与等を実施していることを記載している[4]。

3. 財務データ

フェローテックの公式財務データによれば、2021年3月期から2025年3月期までの主要な連結経営指標は以下のとおりである[5]。

決算年月	売上高 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	総資産額 (百万円)	純資産額 (百万円)	自己資本利益率(ROE: %)	投資CF (百万円)
2021年3月	91,312	8,227	8,280	177,392	78,239	14.3	△20,879
2022年3月	133,821	25,994	26,659	264,772	160,957	26.9	△29,399
2023年3月	210,810	42,448	29,702	410,648	249,656	18.9	△68,760
2024年3月	222,430	26,537	15,154	510,026	278,166	7.8	△92,400
2025年3月	274,390	25,558	15,692	600,593	323,549	7.1	△39,627

2025年3月期の売上高は274,390百万円、総資産額は600,593百万円、純資産額は323,549百万円である[5]。2021年3月期と比較すると、売上高、総資産額、純資産額はいずれも増加している[5]。

2026年3月期決算短信では、以下の連結業績が公表されている[6]。

経営指標(2026年3月期連結)	金額(百万円)	対前期増減率(%)
売上高	288,933	+5.3
営業利益	27,561	+14.4
経常利益	26,063	+2.0
親会社株主に帰属する当期純利益	14,886	△5.1

2026年3月期決算説明および中期経営計画骨子では、2026年3月期の為替レート実績として米ドル149.8円、中国元20.87円が掲載されている[7]。同資料では、2026年12月期の通期連結業績予想として、売上高350,000百万円、営業利益38,000百万円、経常利益36,000百万円、親会社株主に帰属する当期純利益23,000百万円が示されている[7]。年間配当予想は普通配当150円、特別配当50円を含む200円と記載されている[7]。

同資料では、決算期を3月から12月へ変更することについて、2026年12月期は2026年4月から12月

までの9か月決算となるが、連結子会社は1月から12月までの12か月の売上損益が計上されると説明されている[7]。

4. 主要セグメント別の業績

2026年3月期決算短信では、セグメント別の状況として、半導体等装置関連事業、電子デバイス事業、車載関連事業などの業績が記載されている[6]。

半導体等装置関連事業について、2026年3月期決算短信では、真空シールおよび製造装置向け製品等に関する記述が含まれている[6]。同セグメントの売上高は前期比12.0%増、営業利益は前期比30.4%増とされている[6]。

電子デバイス事業について、2026年3月期決算短信では、サーモモジュール等に関する記述が含まれている[6]。同セグメントの売上高は前期比14.1%増、営業利益は前期比26.9%増とされている[6]。フェローテックの公式製品情報では、サーモモジュールは温度管理に関連する製品として掲載されている[1]。

車載関連事業について、2026年3月期決算短信では、売上高は前期比4.0%減、営業利益は前期比25.1%減とされている[6]。同決算短信は、セグメントごとの業績と事業環境を記載している[6]。

5. グローバル生産体制と設備投資計画

フェローテックの公式事業会社ページには、日本、アジア、アメリカ、ヨーロッパの事業会社・グループ会社が掲載されている[10][11]。マレーシアにはFerrotec Manufacturing Malaysia Sdn. Bhd.が掲載されている[12]。同社は2024年1月15日、マレーシア北部ケダ州の製造子会社Ferrotec Manufacturing Malaysia Sdn. Bhd.でグランド・オープニング・セレモニーを開催したことを公表した[12]。

2026年3月期決算説明および中期経営計画骨子では、2026年3月期から2027年12月期までの設備投資計画が示されている[7]。同資料では、マレーシア・クリム、中国の北京、紹興、武漢などの工場計画が掲載されている[7]。同資料に記載された工場竣工、着工、操業開始等の時期は、公表時点の計画として取り扱う[7]。

2025年4月15日、同社はマレーシア北部の製造子会社Ferrotec Manufacturing Malaysia Sdn. Bhd.の第2工場として、総額2億2,640万ドル、約333億円を投じる設備投資を公表した[13]。同発表では、第2工場の対象製品として石英、セラミックス、金属加工関連が記載されている[13]。

6. 公開特許情報

日本国内の公開特許情報は、独立行政法人工業所有権情報・研修館が提供するJ-PlatPatで、公報番号、出願人名、発明の名称等を指定して検索できる[8]。2026年に公開されたフェローテック関連の公報として、以下の公報番号が確認対象となる[8]。

公報番号	発明の名称	公開日
特開2026-57834	セラミックス部材およびその製	2026年4月3日

公報番号	発明の名称	公開日
	造方法	
特開2026-57835	セラミックス部材の製造方法	2026年4月3日
特開2026-55735	ウエハ支持体及びウエハ支持体の製造方法	2026年3月31日
特開2026-13149	セラミックス、プローブ案内部品、プローブカードおよびパッケージ検査用ソケット	2026年1月28日

これらの公報は、J-PlatPatで公報番号を指定して確認する対象である[8]。特許請求の範囲、審査状況、登録状況、権利存続状況は、個別公報および経過情報で確認する必要がある[8]。

米国における公開公報および登録情報は、USPTO Patent Centerで公開番号、出願番号、特許番号等を指定して検索できる[9]。Ferrotec (USA) Corporationに関連する「Crucible cover for coating with an electron beam source」については、米国公開公報US2024/0068085 A1が確認対象となる[9]。同案件の権利状態および関連出願の有無は、USPTO Patent Centerで確認する必要がある[9]。

7. 知的財産・研究開発に関する公開情報

フェローテックのコーポレートガバナンス報告書では、人的資本や知的財産への投資等について、国内外の子会社に関する取組みが記載されている[4]。同報告書は、日本の子会社で若手幹部への積極登用や組織のフラット化を推進していること、中国の子会社で半導体関係の研究院を設置していること、博士クラス人材の採用を強化していること、優秀な特許出願者に対して表彰や報奨金の付与等を適宜実施していることを記載している[4]。

同報告書では、2025年3月末時点の女性採用者比率や新卒・中途採用者の3年後定着率など、人的資本に関する定量目標および実績も記載されている[4]。知的財産に関する定量的な特許件数、地域別出願件数、登録件数、ライセンス収入、訴訟件数等は、同報告書の当該箇所には掲載されていない[4]。

経済産業省および特許庁は、経営における知的財産戦略に関する事例集を公表している[15]。当該資料は一般的な知財戦略の参考資料であり、フェローテック固有の特許ポートフォリオ、権利行使、営業秘密管理の実施状況を示す資料ではない[15]。

8. リスク情報

フェローテックのコーポレートガバナンス報告書では、関連当事者取引、政策保有株式、内部通報制度、取締役・監査役に対するトレーニング、サステナビリティへの取組みなどが記載されている[4]。同報告書は、関連当事者との取引について、法令、取締役会規則、職務権限規程に基づき、取締役会での審議・決議を要することを記載している[4]。

同報告書では、同社が内部通報制度を整備し、通報をしたことによる不利な取り扱いを受けないこと

を明記していると記載されている[4]。また、社内外に相談窓口を設置し、都度対応を実施するとしている[4]。

知的財産に関する個別の訴訟、権利侵害訴訟、ライセンス紛争、NPEとの係争等については、本報告書で確認したフェローテック公式資料の範囲では、具体的な事例を確認していない。2019年に公表された中国子会社に関する訴訟は、知的財産権侵害ではなく、建設工事および代金に関する係争であったため、本報告書の知的財産訴訟の事例としては扱わない。

9. ESG・非財務情報

フェローテックのコーポレートガバナンス報告書は、同社が「顧客に満足を、地球にやさしさを、社会に夢と活力を」という企業理念の下、2021年にマテリアリティおよびサステナビリティ基本方針を策定したと記載している[4]。同報告書では、ESGを推進するための組織体制の整備、社内啓発、定量目標の設定を進める旨が記載されている[4]。

同報告書は、半導体の製造プロセスは環境負荷が大きく、これを解決することが業界全体の課題であると記載している[4]。また、ノン・フロン製の温調デバイスであるサーモモジュール、消費電力削減に有効なパワー半導体基板、磁性流体等の製品販売、日本および中国の工場における太陽光パネルを用いたクリーンエネルギー発電等を、事業を通じた温室効果ガス低減への取組みとして記載している[4]。

同報告書では、2023年3月にサステナビリティ委員会を同社執行役員会傘下の委員会として設置し、サステナビリティへの取組みの状況確認、検討、審議を行い、取締役会等で適宜報告することが記載されている[4]。

引用文献

1. 株式会社フェローテック「技術と製品」
<https://product.ferrotec.co.jp/product/>
2. 株式会社フェローテックホールディングス「当社の商号変更および定款の一部変更(商号)のお知らせ」2025年2月13日
<https://www.ferrotec.co.jp/php/download.php?f=jp%2F20250213572478.pdf>
3. 株式会社フェローテック「企業情報:役員」
https://www.ferrotec.co.jp/company/company_board.php
4. 株式会社フェローテック「コーポレートガバナンス報告書」最終更新日:2025年7月17日
<https://www.ferrotec.co.jp/php/download.php?f=jp%2F20250710511260.pdf>
5. 株式会社フェローテック「財務ハイライト:財務データ(連結)」
https://www.ferrotec.co.jp/ir/ir_finance_data.php
6. 株式会社フェローテック「2026年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」
https://www.ferrotec.co.jp/assets/pdf/jp/ir/%E7%9F%AD%E4%BF%A1_0515.pdf
7. 株式会社フェローテック「2026年3月期 決算説明および中期経営計画骨子」

<https://www.ferrotec.co.jp/php/download.php?f=jp%2F6a0a9c9c082c1.pdf>

8. 独立行政法人工業所有権情報・研修館「特許情報プラットフォーム J-PlatPat」
<https://www.j-platpat.inpit.go.jp/>
9. United States Patent and Trademark Office「Patent Center」
<https://patentcenter.uspto.gov/search>
10. 株式会社フェローテック「事業会社」
https://www.ferrotec.co.jp/company/company_location.php
11. 株式会社フェローテック「グループ会社：アジア」
https://www.ferrotec.co.jp/company/company_cs_asia.php
12. 株式会社フェローテックホールディングス「フェローテックグループ マレーシア製造子会社（Ferrotec Manufacturing Malaysia Sdn. Bhd.）グランド・オープニング・セレモニー開催のお知らせ」
<https://www.ferrotec.co.jp/php/download.php?f=jp%2F65a73f8bb6e19.pdf>
13. 株式会社フェローテックホールディングス「マレーシアにおける設備投資（新工場建設）に関するお知らせ」2025年4月15日
<https://www.ferrotec.co.jp/php/download.php?f=jp%2F20250415516101.pdf>
14. 株式会社フェローテック「企業情報：沿革」
https://www.ferrotec.co.jp/company/company_history.php
15. 特許庁「経営における知的財産戦略事例集」
https://www.jpo.go.jp/support/example/document/keiei_senryaku_2019/keiei_chizaisenyaku.pdf